

茅ヶ崎同盟教会月報

— 2014年1月号 —

信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。(ヘブル12:2)

253-0054 茅ヶ崎市東海岸南2-11-17 Tel&Fax.0467-82-3076

<http://members2.jcom.home.ne.jp/chigasaki-doumei-kyoukai/>

【新しい創造、新しい歌(詩篇40:1~3)】

牧師・熊谷徹

人生という道は平坦な道ばかりではない。山もあれば谷もある。キリストも、「あなたがたは世にあつては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。私は既に世に勝ったのです」と言う(ヨハネ16:33)。この世に生きている限り、試練があり患難がある。ダビデの人生もそうだった。彼の才能と成功を妬む連中から言われなき中傷を受け、ありもしない悪口雑言を浴びせられた。主君でもあった義父から激しい嫉妬を受け、生命さえ狙われた。戦友に裏切られ、信じていた仲間からも見捨てられた。そうした理不尽な試練や苦しみ・患難の中で彼は詩篇第40篇を詠んだ。

苦難・患難の只中でダビデは「切なる思いで主を待ち望んだ」(1a)。孤立無援の中で彼は「主を信頼し」(4)、主に祈った。それも激しく叫ぶように祈った。神は彼の叫びを聞いて下さった。「主は、私のほうに身を傾け、私の叫びをお聞きになり、私を滅びの穴から、泥沼から、引き上げてくださった」(1b-2)とダビデは言う。ダビデは自分が置かれた苦しい状況を「滅びの穴」と表現した。死ぬ程の危機的状況に陥ったのである。また彼は自分の味わった患難を「泥沼」と表現した。もがけばもがくほど沈み込んで行く底無し「泥沼」のような苦しみを味わったのである。そういう苦しみの中で彼は神に祈った。神は彼の「叫びをお聞きになり」、彼を「滅びの穴、泥沼から、引き上げてくださった」。こうして様々な患難・試練をくぐり抜け、それらに勝利したダビデは、高らかにこう歌う；「主は、私の口に、新しい歌、われらの神への賛美を授けられた。多くの者は見(イルウー)、そして恐れ(イーラーウー)、主に信頼しよう」(3)。苦しみと患難を経たダビデの口から「新しい歌」「神への賛美」が湧き出た。救われた感謝と神への感謝が溢れ出て「新しい歌」「神への賛美」となった。

人生には様々な困難があり患難があり、「悲しみの涙」がある。しかし、「キリストによって新しくされた人」(2コリント5:17)には、患難・試練・涙を乗り越えて歌う「喜びの歌」がある。ダビデのように、「主は、私の口に、新しい歌、われらの神への賛美を授けられた」と言うことが出来る。八木重吉のように、「わがよるこびの頌歌(うた)は消えず」と言うことの出来る賛美の人生が生れるのである。

私達の旅路にも患難や試練があるかも知れない。けれども恐れる必要はない。ダビデのように、主に信頼し、主に祈り、主から勇気と希望を与えていただく。そして神をあがめ賛美しながら歩いて行こう。

◇(2014年元旦礼拝説教より)◇